

バトン

福岡県立大牟田北高等学校三年（福岡県）

森山 雪姫

「お菓子があるよ！一回やってみない？」私が茶道を始め
たきっかけは、先輩のこの一言だった。その当時は「お菓
子」という言葉に惹かれて茶道部に入ったが、今ではお点
前をするのが一番の楽しみになっている。実は、お点前自
体はそこまで得意では無く、注意されることも一番多い。
そんな私がお点前を好きな理由は、お菓子を食べながらお
茶を飲む時、みんなが笑顔になる瞬間を間近で見ることが
できるからだ。

二年生になって初めての文化発表会。前の年にはコロナ
ウイルスの影響で出来なかったこともあり、とても楽しみ
にしていた。「お点前ができる！」と喜んでいたが、「雪姫
は色んな人と話せるから」という理由で受付係になってし
まった。人の長所を見つけて采配する部長は流石だと思っ
たが、お点前をしたかった私は正直がっかりした。

文化発表会当日、茶室に順番で待っている人から、作法

がわからないがための緊張が伝わってきた。笑顔が少な
い。笑顔が見たい。私はこういう思いから、順番を待つて
いる人にお茶を飲む作法を説明した。お茶碗を回す理由を
説明した時には、「へえー」「そうだったんだ！」とみんな
感動していたのが印象的だった。やり方が分かると緊張が
ほぐれたらしく、その後は笑顔で茶室に入っていた。そ
のほっとした表情で楽しんでくれている雰囲気が変わり、
私も嬉しくなった。茶道の作法を知ることによって緊張がほぐれ、
茶道の楽しさも伝わる。私は受付係をすることで、改めて
それを知ることができたのだった。

その文化発表会で、私にはただ一つだけ心残りなことが
あった。それは着物を着られなかったことだ。私は先生が
着ている着物に憧れていた。着物を着てするお点前とそう
ではないお点前は、雰囲気全然違うのだ。だから、今年
の文化発表会では茶道の魅力をより深く伝えるために、私
は先生と部員の皆に着物を着ることを提案した。みんなも
「いいね！」「それやりたい！」と賛成してくれ、着物を着
ることが決まった。これから着付けの練習も始まる。とて
も楽しみだ。高校最後の文化発表会、今度は念願のお点前
をすることになっている。完璧にお点前のやり方を覚えて
来てくれた人の心を和ませ、笑顔にしたい。そう思って、
日々精進している。

大牟田北高校は来年度、今までの全日制課程が終わり、

フレックス制という新しい体制になる。後輩に茶道部の「伝統」というバトンを渡したいが、部活への入部率も低い現状がある。今、茶道の魅力を伝えなければ、廃部になってしまうかもしれない。その危機感と茶道にもっと触れてほしい気持ちから、私は後輩に声をかけようと考えた。茶道の魅力はお菓子が出てくることや着物を着ること以外にもたくさんある。それを後輩に伝えることが、全日制課程最後の茶道部員だからこそその使命だと思っている。茶道の魅力に気づくために、茶道に触れる機会がもっとたくさんあってほしい、興味を持ってほしい。そのためきっかけはきつと何でもいいのだ。だから私は声をかける。

「お菓子があるよ！一回やってみない？」と。